

童

2017年7月20日。

いつの間にか夏本番。暑い日差しが降り注ぎ、ヒグラシが鳴き、ひまわりがぐんぐん伸びている光景。雨がしとしと降り、ジメジメした時が続く梅雨を覚悟していたのに、まさにあれよあれよという感じで、肩すかしにあったように夏が来ている感じです。でも、あちこちでゲリラ豪雨や大気不安定による災害、天気図では読めないスポット的な大雨や雷の発生など、何か、予想できない不気味な天候や環境変化の恐ろしさを感じてしまうのは、私だけでしょうか。謙虚に、自然の変化や心構えを受け止めていかねばならないように感じます。

給食、海水浴、流しそうめん、七夕、夕涼み会などと、天に感謝しなければならないほど、お天気が味方して、一足早い夏を味わわせて頂いた7月です。特に、保護者の皆様の熱いご理解とご協力のお陰で、どんな行事も（構えた行事でも自然体で日常の暮らしのように）、フットワークが軽く、かつ、内容の濃い質の高くかつセンスのよいものがすぐに実現してしまう味わいがたっぷりありました。凄いですね。

何度も言い尽くしていますが「人は、仲がいいから一緒にご飯を食べるのではなく、一緒にご飯を食べるから仲がよくなる」とあるように、一緒に企画したり作ったり行動する機会を経て、相手のパターンや心構えなどを理解共有しながら仲がよくなり、コミュニティが広がりネットワークが出来ていくのでしょうか。頭や理論だけで繋がっていくものではないでしょう。それは、家族でも言えることですね。

そんな意味で、一緒に給食を作ったり、行事を企画したり、ダンスやオペレッタなどを練習して、何度も身体と心をつき合わせるこの過程の積み重ねの先に、素敵な充実感と感動溢れるお土産が用意されているのでしょうか。それこそが、青春そのもの、張りのある素敵な世界、輝きのある世界だと思っています。

お陰様で、皆様や子ども達とそんな青春を日々送らせて頂けることに感謝です。今年の夏も、とにかく、世の中の平穏を願い、自然の怒りをかわないように、日々感謝して熱い夏を過ごしましょう。



【占い】

中学生の頃、学校に出かける前、テレビで、星座生まれの今日の運勢を見たり、今週の運を見たりしたことがあります。見た時は気をつけなくては、心に留めて置かねばと思いますが、学校へ一步步き始めるとすぐに忘れてしまいました。それよりも、強気で、「鳴かぬなら鳴かせてみようホトトギス」なんていう事で、その運を変える、心構えを変える、方法を変えるなどをしてきて、最終的には自分のパターンを変える以外、他力本願ではだめで、自分の心を変えることでしか対処出来ないと、自分なりに理解出来てきました。だから、占いに頼り、事前対策をして、それから避ける、一時的に非難する というパターンをその都度繰り返すという他力本願的な事に、違和感を感じてきました。それは占い自体ではなく、占いに頼る心構えにアレルギーがありました。

その長年の理解しがたいモヤモヤが、今流行の「あな健」の「マイナスもプラスに生きる」の著作の中にこれだ！！という清涼飲料水を見つけました。東城さんは、四柱推命を相当学んできたようですが、東城さんの師である常岡先生は、四柱推命では、めちゃくちゃの人生で短命 運勢も良くない事になっていましたが、自分を鍛えながらそこを通過して、全部ひっくり返した、逆転したと言うことです。努力し、苦勞して己を磨くことが、自然から教えられた方法だと。

「人はなるべく苦勞しないで楽な道を通りたいから、占いを頼って楽な道を選ぶ。それでは自然は喜んで応援しません。自然に喜ばれるのは、どこまでもその人の心根がどこにあるかということです。

方角が悪いからと方角のせいにしてたりする人がよくいますが、それは方角が悪いのではなく、こちらがそうなような心を持って歩いているのです。方角が良い方に行って、一時的に良くなったとしても、持っているものは片付いていないから同じ事です。運勢が悪いなら、自覚して自分を鍛えて育てていくというのが本当の占いだと思うのですが、たいがいは逆をやっています。だから、占いを頼っているのは幸せは来ない。自分が持って歩いているものを自覚して、自分が持っている我が儘、自己中心の心などの良くないものを捨てなければ自然に応援される行動力にはなりません。そして、それは自分がそこを通らなければ捨てられないのです。」

自分の人生を振り返って見ても、失敗するパターン、またやっちゃったというパターンは、大体同じ。焦っている時、無理している時、調子に乗っている時、ざわざわした心持ちの時、ずる賢くしようとする時など、パターンは決まっています。つまり、悪い運勢は、必ず定期的にやってきます。占いでわかっている、自分の心持ちを変えようとしていないで、その場限りでかわす、避ける、排除することが出来ても、根本パターンを変えないのですから、次々に定期的にやってくるようです。心根が変わってないのですから。

大地の環境も同じです。卒園生で20歳位になった子どもやその親が久しぶりに大地を訪れ、「きれいになっていますね」などとおっしゃって下さることが多くなりました。広大な敷地や畑や花壇や倉庫や裏庭など、昔はあらゆるものが雑になっていて、忙しいから手が回らない、そんな暇がない、余裕がない などと言いついていました。(最近のあなけんには、余裕は、自分で作るものだ とときっぱり書いてありました！！) また、かんでんパパの塚越さんの著書「いい会社を作りましょう」には、見えない場所、つまり建物の裏側や倉庫などをきれいにすることが本物である、人間の心を反映している ともありました。人に見せるためにきれいにするのはではなく、自分が気持ちいい、自分の心の整頓になる、美しい凛とした気持ちになれる、モチベーションがあがる、土地や環境建物が愛しくなる、など、そんな自分の心根が現在にはあり、当時は 余裕がないのではなく、そんな心持ちがなかったのでしょうか。大して、几帳面ではない性格ですが(きっと占いでは、ずばらなせっかちで大雑把な行動パターンだと予言されるでしょう)、なんとか、自分を自覚した上で、自分にハッパをかけて鍛えてきていると、多少は思っています。

4年前に自転車事故で顔面のあらゆる場所を骨折して、顔面のしびれなどの後遺症で元の身体に戻れない自分が情けなく、自分の不運を嘆く事もまだありますが、当時、ある人が 「この事故で、青ちゃんの寿命が延びたね」とおっしゃって下さった方がいました。このけがも、天からのメッセージであり、顔面のしびれは、これからの人生を健康に過ごすために、常に鳴り続ける警笛なのかも知れません。種をまいたのは自分だし、その星を持って生まれてきたのも自分なので、その縁も天からの頂き物。それなら、それを素直に受け入れて生きるしかありませんね。けがも病気も家族関係も夫婦関係も人間関係や悩みも憂い事も、皆、自分が呼び込む縁ですね。

「何事も自分を育てる縁だ。釣り合わざるは不縁のもと。病気やけがと釣り合うのも縁。それは自分を育てるために天が下さった手紙だ。その天の手紙をどう読むかということが大事だ」(あなけん)